

# 真高寺だより

第20号 平成25年8月1日発行  
発行所：真高寺（伊澤孝順住職）  
住所：市原市飯給1143  
電話：0436-96-0058  
\*発行責任者 根本 貞夫  
\*編集責任者 木村 孝一



(写真提供：山内憲章氏)

道元禅師のおことば  
「人のしぬるのち、さらに生とならず」

(現成公案)

## お言葉の意味

私たちは、この世に生れたときに、死という重荷を背負ってしまった。死んでしまったら二度とこの世の楽しみを味わい、この世を遊ぶことはできない。私たち一人一人の人生を無報酬で支えてくれている大宇宙の偉大なる生命に、「ありがとう」と合掌したとき、今日の一日が輝く。なによりも今まで生きてこられたことに心から感謝することが肝心である。

## 知らないことだらけです

総代会長 根本 貞夫



「般若心経」や「修証義」は、法事など色々な折に耳にします。しかしながらその意味するところは、私だけかもしれませんが、単に聞いているだけでは全く分かりません。真高寺本堂に備え付けられている、永平寺編纂の手帳サイズの「修証義」を開いてみても、どうにか読むことはできても何を言わんとしているのか皆目解りません。そこで少し調べてみました。すると「般若心経」とは、孫悟空などで知られる三蔵法師が、天竺から唐（中国）に持ち帰ったお経の中の「大般若経」というお経を、僅か二百七十六文字と言う長さに要訳したもので、正しくは「般若波羅蜜多心経」と言うそうです。短い文章の中に、私たち人間が迷いから悟りの世界へ到着するにはどうしたらよいか、また理想の世界とは何かが簡潔に示されているのだそうです。一方「修証義」は、厳密には「修證義」と書かれますが、高祖道元禅師の著書である「正法眼蔵」のエッセンスを抜き書きして、明治23年に編纂されたお経だそうです。「修」は修行、「証」は悟り、「義」は意味とか意義のことで、曹洞宗の宗旨を広く一般檀信徒に分かってもらうために作られた宗門の中心のお経だそうです。このことがようやく分かりました。しかしいくら聞いても、相変わらず珍<sup>ちんぶんかんぶん</sup>紛<sup>ま</sup>漢<sup>かん</sup>紛<sup>ぶん</sup>なのです。全くもって、知らないことだらけです。合掌

せじきえ せがきえ ごによらい  
**施食会(施餓鬼会)の五如来について**

住職 伊澤孝順



猛暑が続く毎日、この時期にお盆や施食会を迎えるのですが、檀信徒並びに新盆家の皆様にとって、施食棚の上に飾られた五色旗の五如来について説明したいと思います。

三界（欲界・色界・無色界）の万霊（諸々の精霊）、特には無縁の霊を供養するのに五如来を招き、その導きにより、施食棚に浄食・浄水をお供えし、冥界の苦を離れて、天に生じて樂を受けさせようとする大切な供養の法要です。

五如来とは、どのような仏様かと言いますと、五つの智慧の働きと五つの救いの働きをなす仏様です。

- ① 多宝如来とは、南方の宝生仏で、布施の恵みの働きによって欲深い心と貪りの心を無くさせ、円満なる智慧を与え、大いなる宝を施してくれます。
- ② 妙色身如来とは、東方の阿閼仏で円かな鏡のような智慧の働きで飢えと渇きの為にやせ細った鬼のような人間の煩惱を妙なる色身（すがた）にしてくれます。
- ③ 甘露王如来とは、西方の阿弥陀仏で甘露のようにすぐれた仏の教え（妙法）の働きで、心を満ちたりたものにしてくれます。
- ④ 広博身如来は西方の毘盧舎那仏で、広く博き身を与えて下さる仏様です。
- ⑤ 離怖畏如来とは、北方の釈迦牟尼仏で、怖畏の仏から離れて、安樂の妙境に導いてくれる仏様です。

また、五如来幡（大幡）とは、上から青（緑）色・黄色・赤色・白色・黒（紫）色とします。



## 山内あれこれ

### 佐久間作衛さんありがとうございました



先代渡辺住職の頃より、長年、万田野檀家の総代を務められた佐久間作衛様が4月に退任をされました。山門改修事業の時は「勸募委員」として、さらには「仁王様・境内外整備部会」の部長としてご尽力下さいました。また山門前に御影石の賽銭箱を寄進されるなどの大きなご貢献をされました。今回、退任に当り山門の仁王様に目を入れたいとの申し出があり、先の役員会での話し合いの結果、快く申し出を受け入れることとなりました。今日までの佐久間さんのご尽力にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 後任は佐久間信義さんです

今回、佐久間作衛さんの後任として総代に就任された佐久間信義さんは、先の山門改修事業の時には、協力委員として会計部会に属し、経理の取りまとめ等のため、既にご尽力をいただいております。



## 皆様のご寄進ご奉仕に大感謝 立派な若木をいただきました

### LEDの街路灯です

万田野の佐久間照夫さんと中村文夫さんより、LED照明の街路灯2組(電柱を含む)と蛍光灯の街路灯5組の寄贈をいただきました。今まで本堂前の街路灯は大風が吹けば倒れそうでしたが、夜間照明施設としても昼間の景観としても申し分ありません。



養老の河邊龍雄さんよりつつじの苗木100本の寄進をいただきました。これを水屋周辺や参道の土手に佐久間造園さんにより植栽いたしました。来年から美しい花が見られるものと思います。

また現在、夏冬年二回境内の植木の手入れをお願いしています佐久間造園さんより、きりしまツツジとモクゲンジの寄進をいただきました。こちらは水子地藏さんの隣に植栽しました。



### お花の手入れありがとう



加藤美枝さんと金巻いちさんのお二人が、今年も参道入り口から山門にかけて、花の植え込みや草取りなどを通じた手入れをしてくれています。「今年は向日葵等パワーのある花を植えました。私たちも元気になれるようにと…」そう言いながら作業をされています。いつもありがとうございます。

### 草刈り奉仕も布施行です

前役員の大沼康衛さんが、延べ三日間に渡りお寺の裏山の草刈りをして下さいました。急な



斜面の草刈りは取分け大変な作業ですが、黙々とお一人でのご奉仕に只々感謝申し上げます。

## 10時からです。是非お出かけ下さい

山門大施食会は全檀家のご先祖総供養として、今年も8月15日10時から行います。どうぞ皆様も一緒に焼香し、各家先祖供養の塔婆をお持ち帰り下さい。必ずやご先祖様が喜ばれます。なお新盆家は付け施食会として、山門大施食会の後に11時より執り行います。



### 先祖供養の塔婆の申込みはお早めに

山門大施食会の本旨に立ち返り、新盆家以外の一般檀家の皆様に先祖供養の塔婆申込みを呼びかけ致しましたところ、昨年は百家を超える皆様から申込みがございました。年に一度のことです。是非とも全ての檀家の皆様が、先祖供養の塔婆を申し込まれますようお願いしております。申込みは直接お寺まで、お早めをお願い致します。なお塔婆料は1本3千円です。

## 新盆家は19家です

今年の新盆家は、霊園関係が7家で、既に新盆施食会は7月15日に催行されました。また根檀家は12家で、8月15日の山門施食会の時に付け施食会として催行いたします。



## 今年の新盆家



### 霊園檀信徒

仲村 喬家

上野 静枝家

星野 とよ家

竹 康子家

佐々木 つぎ子家

宇佐見 理津子家

長田 勇一家

### 根檀家の新盆家及び棚経日程は次の通りです

8月13日

万田野地区 佐久間 照夫家

佐久間 勇一家

佐久間 績家

飯給地区 田中 靖男家

田中 康人家

木村 和央家

柿木台地区 久保田 登志子家

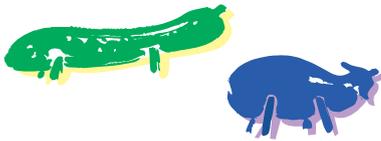
平野 一夫家

大沼 康亨家

養老地区 河邊 龍雄家

高滝地区 根本 義三家

宮原 誠一家



## 今年の新盆家は飯給地区です

今年の新盆施食棚経回りは飯給地区です。新盆家の棚行を挟みながら、13日と14日で回ります。13日は万田野の佐久間照夫家から始め、そして14日は前日回れなかった4番組と5番組を回ります。なお、従前は塔婆を持参しての棚経でしたが、一昨年から塔婆は山門大施食会での先祖供養の後にお渡しするように改めました。15日にお寺に参拝して直接受け取られることが一番よろしいのですが、どうしても都合のつかない方は地区の総代さんに後で届けてもらうこととなります。ご承知ください。

## 朝参りは見直しを

毎年、お盆の14日に「朝参り」をして下さる檀家の皆さんがおられます。真高寺の現状では「朝参り」は一部の限られた地区の皆さんによって行われています。ただ昨年、「近頃物騒だから、用心のために家に鍵をかけて朝参りにきたよ。朝参りも楽ではないよ…」との声を聞きました。そこで、今年からこの「朝参り」を見直したいと思います。勿論、一方で「お寺にはいつでもお気軽にお越しください」と言いながら、「来なくていいです」とは言えません。ただ色々な支障がある中で、無理をしてまで「朝参り」をしなくても宜しいですよと申し上げます。ご理解下さい。



## 諷誦文の申込みは8月7日までに

施食会の折に行われる諷誦文につきましては、8月7日までに一人分千円の代金を添えて、お名前を楷書で明記して申込み下さい。施食会当日の追加申込みの場合、お名前が張り出される前に、諷誦文の読み上げが行われるなど、結果としてご迷惑をおかけすることがよく見られます。

## 三界万霊塔を移設しました

以前、鐘楼の先に設置されていましたが無縁となった寄せ墓石の三界万霊塔を、今回霊園奥の一角に移設いたしました。以前は草木や竹が繁茂していましたが今後はそうした心配は全くなりません。



## 俱利伽羅不動の龍に台座を

真高寺三体の龍の一つ俱利伽羅不動の龍に、しっかりとした台座を付けました。今までは単に地面に置かれただけでしたが、これでお寺の大事な龍神様としてお祀りできます。なお、台座前のお供えの用具一式は東石材さんの寄進によるものです。



## 涼しさが実感できます

お寺の全ての戸口に網戸が入りました。実は戸の大きさに合わせて網戸が入れられることを知りませんでした。しかし寸法は自由に対応できるのを知りましたので、この度全ての窓や戸口に網戸を入れました。お陰で虫を気にすることなく、涼しい境内の風を存分に屋内に入れることが出来るようになりました。



## 晴天、絶好のスカイツリーでした

1月27日(日)、本山初詣を催行いたしました。今年は大本山永平寺の東京別院である西麻布の長谷寺ちやうこくじでした。ここでお参りを済ませた後、お目当ての東京スカイツリーに出かけました。よくニュース報道でも、風が強いため昇れない事もあるそうですが、この日は世界遺産となった富士山も筑波山も間近によく見えて絶好の展望日和でした。来春は下谷の七福神巡りなどを検討しています。



## 文化財防火デー訓練行われる

1月31日(木)、市原市指定文化財の真高寺山門付近から出火したことを前提に、総合的な防火訓練が実施されました。この訓練は毎年文化財防火デーを中心に実施されるものです。現地の指揮は南総消防署が担い、その下に加茂分署の消防隊と救急隊、そして地元の消防団が参加しました。総代役員も火災報告者になったり、重要書類の持ち出し人になったり、負傷者になったりして、最後に全員が初期消火訓練を行いました。



## まだ半分だけです

2月17日(日)午前8時より、総代役員により裏山右側の竹伐りを行いました。枯れたり、斜めに傾いたりしている竹を中心に皆で伐採しました。山門の前からお寺を見上げますと、裏山は屏風のように見えます。その屏風に描かれた絵の主材は緑豊かに立つ孟宗竹です。それだけに裏山が荒れて見えることは、山門の背景景観としても宜しくありません。そこで、竹の伐採を実施いたしました。しかし時間と体力の関係で裏山の右側だけでした。今後、適切な時期に左側の竹伐りを実施し、美しい屏風を完成させたいと考えております。

## 松原智恵子さんが訪問されました

3月26日午後1時過ぎ、女優の松原智恵子さん(68歳)が真高寺の山門を見学に見えました。これは、ちばぎん総合研究所が6月に発行した「ひまわり倶楽部」の特集「市原の歴史文化をたずねて、五井から養老溪谷へ・上総国府と小湊鉄道の旅」によるものです。毎号、県内各地を女優さんが訪問して広く紹介する企画です。今回私たちの所では、真高寺の他に世界一広い飯給駅のトイレや柿木台の素掘りトンネルなどの取材で来られたものです。



## 晋山結制に出向きました



5月26日、奉免の「大智山満蔵寺」の野口住職の晋山結制が行われました。第16教区を中心とした南総加茂の寺院関係者、約100人が参列して盛大に挙行されました。

## 第16教区護持会研修会開かる

6月28日(金)本郷の西光寺を会場として、曹洞宗千葉県第16教区護持会研修会が開催されました。初めに曹洞宗管長の福山諦法禪師からの「おことば」が特派布教師の三重県廣禪寺住職の武内宏道老師により代読されました。依然解決を見ない東日本大震災等、私たちの命に関わる多くの課題に直面していることを踏まえて、曹洞宗が掲げる「人権の尊重、平和の確立、環境の保全」の実現を目指し、人々の苦難を吾事として受け止めましょう。そこで今年は四摂法の「布施」、惜しみなく分かち合う菩薩行を柱に取り組んで行くことを目標とします。特に道元さまは「布施」とは貪らないこと。また瑩山さまは坐禅の時に慈悲心溢れる本来の生き方が広がると説かれました。共に支え合う「布施」の菩薩行をすすめてまいりましょうとのお話をされました。また他に、104歳まで務められた前永平寺宮崎管長は、日頃「物言いは丁寧に、人には親切に」と良く言われた。そして現永平寺福山管長は「健康管理はしっかりと。火の用心に努めましょう。そして人には親切にしましょう」を口癖のように言われる。そんな話もされました。



## 総代会行われる

7月6日(土)19時より、真高寺檀信徒会館にて恒例の総代会が開かれました。当夜の内容は8月15日の山門大施食会の運営内容と役割分担の確認です。また恒例となった、お盆に備えての山内の草刈りは8月10日の午前7時30分より行うこととしました。

## 真高寺のパンフレットができました



ようやく真高寺の素敵なパンフレットが出来上がりました。圏央道の開通や来春予定の中房総アート・ミックスなど、南市原が注目を集めています。こうしたことから、真高寺を訪れる人も増えて参りました。そこできちんと真高寺を理解してもらうべくパンフレットを作成いたしました。作成に当っては主要な写真を牛久の山内石材の山内憲章さんに、また真高寺縁起などの歴史的な内容に関しては市文化財センター所長の田所真さんにお世話になりました。

## 引き続きホームページを

ホームページの立上につきましては、市内の事業者であります「シティー・ライフ」さんをお願いをして進めております。既にアドレス(URL <http://ichihara-shinkouji.jp>)を取得しましたので、出来るだけ早くに立ち上げたいと考えております。



## 南市原七福神巡りも夢でない

市制50周年を記念して、「南市原七福神」を検討しています。加茂地区を訪れる人たちに喜んでもらえる場所を増やす意味からも、信仰の地である社寺が手を携えることは大きな意味があります。一社寺では出来ませんが、少しでも来訪される人たちに温かく清々しい気持ちになってもらえるよう、仕掛けとしての七福神巡りを南市原の関係社寺の皆さんと考えてまいります。

## 真高寺で厄除け土器投げを<sup>かわらけ</sup>

気軽にお寺に来てもらい、楽しく過ごせる機会を増やす方途の一つとして、フリスビー感覚で厄除けの土器投げができるよう検討しております。実現は少し先のことですが、鐘楼の近くから桃の花咲く谷越えに天日干し粘土の小皿を先に設えた「福輪」に向かって投げるものです。天日干しの皿ですからやがて土に還ります。環境にも配慮しながら、新たに始める取り組みがやがてお寺の伝統になるものと考えております。



## 四か月も先のことですが...

元旦の新年祈祷会に参加された参拝者の皆様に、お寺より祈祷達磨（ダルマ）を差し上げました。四か月も先のことですが、差し上げた達磨を除夜の鐘の時に寺に持参してお焚き上げ下さい。今年も先着順ですが、お寺から新しい福達磨を参拝者の皆さんにプレゼントいたします。

## 駐車場の舗装化を検討しています

お陰様で広い駐車場が出来ていますが、雨によって路盤が洗掘されるなど路面の悪化が目立つようになりました。そこで三つあります駐車場を逐次舗装して行きたいと考えております。



## 何とも残念なことですが

やむなく本堂前の枝垂れ桜を伐採いたしました。皆さんもお気付きの事と思いますが、ほぼ枯れてしまいました。そこで近くに若木を植えて新たな枝垂れ桜を育てることとしました。  
また参道脇の染井吉野桜についても、走り根が参道のU字溝や舗装路面を持ち上げるなどの問題を引き起こしています。この対応につきましては忙しいこの夏が過ぎた段階で協議しながら取り組んで参ります。

## 檀信徒の皆様へ

ご貴家で万一ご不幸がありました時は、必ず早めに寺の方にご一報下さるようお願いいたします。また、寺にご意見やご不明な点がありましたら、遠慮なく手紙や葉書、或いはファックスなどでお知らせ下さい。

## 編集後記

土器投げの目標となる「福輪」をどう作ったらよいか、建築板金業をしている檀家の高山武志さんに相談しました。するとしばらくして、町会役員会でお会いした折に、高山さんから「色々と考えてみたけれど、やはり藁のようなものの方が好ましい。本物の藁ではなくても藁のようなものがあるはずだ」そう言われて、はたと思ひ当る事がありました。と言いますのは、6月30日に佐倉の麻賀多神社に参拝する機会がありました。丁度、夏越祓の茅の輪が設えてありました。この茅の輪が一見本物のように思われたのですが、よくよく見ると色も太さも全く同じ材料で、浅黄緑色の五ミリ径程の紐を直径10センチほどの丸い太さに束ねたものでした。「福輪」のモデルは正にこの茅の輪でないかと思っています。詳しいことを知っている人は是非お教え下さい。